

NON 討論番組 百客良論

鳥取県は、まんがを地域の観光資源ととらえ、まんがをテーマとした観光地づくりや観光客を呼び込む取り組みを進めている。ことしは国際マンガサミットと国際まんが博が鳥取県内で開かれ、県内各地でさまざまなイベントが展開される。県民はこの動きにどうかかわり、地域づくりに生かしていくか、関係者に聞いた。(番組コメントから抜粋)

【出席者】
内田 浩二さん(鳥取県観光政策課まんが王国とっとり推進室副主幹)
鈴木 聡さん(鳥取市文化芸術推進課主査)
麻田 雄一さん(NPO法人未来事務局長)
【コメンテーター】
森原 昌人(新日本海新聞社編集制作局長)
【司会進行】清水 隼人(NCNアナウンサー)

【テーマ】 まんがを生かした地域づくり ~まんが王国建国イヤー

コメンテーター

まんが王国について説明を。

鳥取県からは水木しげる先生、青山剛昌先生、谷口ジロー先生など世界的に著名な漫画家を輩出している。まんがを鳥取県の強みとして観光、産業に結びつけるため、ことしを「まんが王国建国イヤー」と位置付け、取り組んでいる。まんがを活用して世界に鳥取を発信したい。

鳥取市では谷口ジロー先生の原画展を2回開き、「父の鷹」の朗読劇を催すなど代表作

まんがイベント

鳥取市では8月から11月までの4カ月間開催する。

鳥取にあればどこかでイベントが行われ、まんがやアニメに親しめる環境を市町村や民間団体と一緒に準備を進めている。11月

イベントで世界に鳥取発信

内田さん

市民公募の鳥取まんが本を

鈴木さん

誘客する仕掛けづくり必要

麻田さん

を紹介している。まんが王国建国イヤーのことは集大成の年。成果を最大限発揮する年にしたい。

鳥取県出身の漫画家の北東アジアへの広がりは。

北京で開かれたマンガサミットでは、中国の若い人たちが名探偵コナンをよく知っていた。北栄町の青山剛昌さんご館にぜひ行ってみたいとの声も聞かれた。韓国や台湾でもコナンの人気は高く、鳥取県の宝と実感している。

韓国での国際ウォーク大会でもコナンは人気が高かった。

水木しげる先生のアニメも一昨年、韓国で放映され、コミックも発売された。ことしは台湾に鬼太郎のショップが設置され、鬼太郎関係の展覧会も開かれた。「ゲゲゲの女房」が台湾でも放映され、水木先生や鬼太郎への関心は高まっている。



内田 浩二さん



鈴木 聡さん



麻田 雄一さん

高知県とは昨年からの連携し、京都の国際まんがミュージアムで鳥取VS高知の対決を企画した。秋のマンガサミットでも高知県から出展をお願いしている。埼玉県もアニメを活用し、川崎市では藤子不二雄ミュージアムが新設された。境港の水木しげるロードの成功が他県の取り組みの参考になっているのは、鳥取県内では三朝町がアンパンマンのやなせたかし先生の企画展を夏に開催する計画だ。

全国のまんがミュージアムを訪れている人たちがこころし鳥取県に誘客する仕掛けが必要だ。鳥取方式をマニュアル化

しはどうか。

昨年、県が発刊したコミック「とり漫」が人気だ。

鳥取の食や県出身漫画家による鳥取を題材としたコミックで、初版1万部に加えて3千部増刷し、売れ行きは好調だ。最近活動していない先生も「地元のためなら」と久しぶりに筆を取っていただき、県と漫画家の思いが一致した作品だ。県外の出身者には、ふるさと鳥取の良さを感じ出したと評価いただいている。

まんがを描くのは技術がいる。一般市民から幅広く参加してもらうため、鳥取市は来年度、まんがにしたいストーリーを公募する計画だ。優秀作品を鳥取県出身の漫画家に描いてもらい、最終的にまんが本を出版したいと考えている。鳥取にちなんだショートストーリーで、まんが王国建国イヤーにふさわしい本にしたい。

まんがの蔵書も必要では。

県内でもまんがの蔵書を進めるとともに、国際マンガ図書館の準備をしている明治大学と連携していきたい。

3月に鳥取市で開かれる文化イベント「エンジン01」では、ちばてつや先生や里中満智子先生が鳥取に来られる。まんがのワークショップや講座は大人気でチケットは売り切れ、まんがへの関心が高いことが分かる。

青山剛昌先生は年に1回は帰ってこれれば、ふれあいイベントでは多くの人が集まる。まんがを活用した産業振興、教育を考えていくことが重要だ。

まんがと経済効果

まんがを活用した事業者の取り組みについては。

グッズ販売や飲食店でのPRなどライセンスを使いやすい風土をつくるのが重要だ。それが、まんが王国をPRしていくことになる。

国際まんが博の4カ月間目標を掲げ、経済効果を出したい。また、鳥取に行けば特別なグッズが買える消費の動機にするため、グッズ開発を事業者と一緒に取り組みたい。

食のみやこと既存のイベントと絡めて展開してはどうか。

食もテーマの一つで、まんがが出てくる食材や料理を地域で再現し、売りに出せばどうか。まんがと食材のコラボだ。各事業者からはいろいろな発想が出てくるのでは。

まんがは日本が誇るコンテンツで、韓国や中国では日本のまんががあこがれの的だ。米子ソウル便などを活用してアジアからの観光客誘致に取り組みが必要がある。

韓国では日本といえは温泉で、別府などが知られる。日本のまんがといえは「鳥取」と連想してもらおうチャンスだ。今から刷り込みを仕掛けては。

最後にまんが王国建国に向けた抱負を。

まんが事業はアイデア、英知が必要。知恵を出した者が勝つ。芸術性が高いもの、大衆性のあるもの、いろいろな分野で民間と協力して取り組み、ありきたりでない有意義な事業となる。

向こう数年間の目指すべき姿も考えるべきだ。教育にまんがを取り入れ、例えば教員がまんがを使って授業をする、全国の大学生が鳥取でまんがを学ぶなど鳥取らしい取り組みが必要だ。また、まんがで起業する風土をつくることも重要だ。

まんが王国は当面、観光面が中心だが、産業面の取り組みも必要だ。コミュニケーションのツールとして、また教育への活用なども考えられる。

地域産業を振興する狙いで、世界の最先端を行くまんが文化をつくる機運をぜひ盛り上げていきたい。

★番組は26日午後7時から再放送します。デジタル11チャンネルで繰り返し放送。

アジアから観光客誘致を / 多彩な分野で民間と協力 / 教育や起業にまんが活用

内田さん

鈴木さん

麻田さん